

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年(コース)	1年次
使用教科書	数研出版 『改訂版 新編 言語文化』				
副教材等	数研出版 『改訂版 新編 言語文化 準拠ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 地域と連携する活動をととして、地域に愛着を持ち、将来にわたり地域社会に主体的に貢献しようとする姿勢を育成します。 ② 防災減災学習や地域理解学習をととして、地域の課題を自分事として捉え、解決しようとする態度を育成します。 ③ 豊かな心を持ち、思いやりをもって自他を尊重し、国際化に対応したコミュニケーション能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 基本的生活習慣を確立させる生徒指導や人権教育、同和教育の推進をととして、規範意識・社会性の涵養、いじめを許さない態度の育成をするための教育活動を展開します。 ② 3年間の系統的で継続的な「白嶺HSJ（ホップ・ステップ・ジャンプ）」プランによるキャリア教育や防災減災学習により、学力向上、進路実現を目指すための指導や取り組みを推進します。 ③ 職業理解、地域理解を深め、地域課題を解決しようとする態度を育成するため、地元の産業界、関係機関等との連携・協働を推進し、地域の復興や活性化に向けた教育活動に取り組みます。

2 学習目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 - 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 - 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- 進路希望が多岐にわたっていることから、
- 基本的な言語事項の習得を重視し、特に漢字や語彙の確実な習得を目指します。
 - 文章を的確に理解した上で、自分の感じ方や考え方を確立させることを目指します。
 - さらにそれらを的確に表現し、他者と円滑にコミュニケーションを図る態度を目指します。

4 評価の観点の趣旨

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ ・定期考査の分析 ・提出物などの内容確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期考査の分析 ・授業中の発言の観察 ・提出物などの内容の確認 ・ワークシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・授業中の観察 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。
	各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点と評価方法
4	地域の「ことば」	三浦哲郎 「とんかつ」	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 作品に表れているものの見方、感じ方を捉え、内容を解釈する。 ・ 叙述を基に人物像や心情を捉え、筆者の表現しようとしていることを理解する。	6	ワークシート (記述の点検) a、b、c 授業中の発言等 c
	5	詩歌を味わう	・ 短歌の表現と技法と、その効果について理解する。 ・ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、理解する。 ・ 作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を理解する。	5	ワークシート (記述の点検) a、b、c 授業中の発言等 c
6	定期考査			1	a、b
	「ことば」を吟味する	三浦しをん 「舟を編む」	・ 叙述を基に人物像や心情を捉え、筆者の表現しようとしていることを理解する。 ・ 文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解する。 ・ ことばの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	6	ワークシート (記述の点検) a、b、c ワークシート (記述の分析) b 授業中の発言等 c
7	古文の世界を楽しむ	宇治拾遺物語 「児のそら寝」 古文の学習	・ 歴史的仮名遣いや古今異義語、文語のきまりを理解する。 ・ 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	5	ワークシート (記述の点検) a、b、c ワークシート (基礎知識の確認) a、c 授業中の発言等 c
	定期考査			1	a、b
9	受け継がれる古文	芥川龍之介 「羅生門」	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 老婆が語る論理を、叙述を基に読み解き、下人がどのように判断したか、理解する。	7	ワークシート (記述の点検) a、b、c 授業中の発言等 c
	日本語の中に生きる漢文	訓読のきまり格言	・ 日本語における漢文の影響を理解する。 ・ 漢文の訓読や書き下し文のきまりを理解する。 ・ 格言に表れているものの見方や考え方を理解する。	4	ワークシート (記述の点検) a、b、c ワークシート (基礎知識の確認) a、c 授業中の発言等 c

10	故事と成語	漁夫の利	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめる。	4	ワークシート（記述の点検） a、b、c ワークシート（基礎知識の確認） a、c 授業中の発言等 c
	定期考査			1	a、b
	昔と変わらない人の心	伊勢物語 「芥川」	・歌物語の構成を理解し、物語の展開に即した主人公の心情の変化を理解する。 ・和歌に込められた心情を理解するとともに、和歌の修辞について理解する。	5	ワークシート（記述の点検） a、b、c ワークシート（基礎知識の確認） a、c 授業中の発言等 c
	和歌が作り出す世界	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	・三大和歌集の学習を通して、それぞれの特徴を捉えるとともに、和歌の修辞法を理解する。 ・繰り返し音読することで、リズムや意味を感じ、それぞれの和歌に表現されている感動や心情を理解する。	6	ワークシート（記述の点検） a、b、c ワークシート（基礎知識の確認） a、c 授業中の発言等 c
	定期考査			1	a、b
	漢詩を味わう	中国の漢詩／ 日本の漢詩	・繰り返し音読することで、漢詩独特の対句や押韻などのリズムを感じとる。 ・近体詩の形式を理解する。 ・作品の背景を考えながら、作品に込められた作者の感動や思いを理解する。	5	ワークシート（記述の点検） a、b、c 授業中の発言等 c
	「ことば」を紡ぐ	村山由佳 「雪のなまえー人間の学校ー」	・叙述を基に三人の登場人物像や行動の意味やそれぞれの心情を理解する。 ・題名の「人間の学校」の意味を理解する。	6	ワークシート（記述の点検） a、b、c ワークシート（基礎知識の確認） a、c 授業中の発言等 c
	定期考査			1	a、b
	「ことば」の力	太宰治 「葉桜と魔笛」	・叙述を基に登場人物の置かれている状況を理解する。 ・描かれている時間軸を正確にとらえ、心情の変化、感じ方や考え方の変化を理解する。	6	ワークシート（記述の点検） a、b、c ワークシート（基礎知識の確認） a、c 授業中の発言等 c
	定期考査			1	a、b

計70時間（50分授業）

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 10時間	B「読むこと」 古典 40時間 近代以降 20時間
-----------------	-----------------	---------------------------------

7 課題・提出物等

- ・近代以降の文章を取り扱う際、各単元のはじめに語句調べの課題に取り組み、提出し点検を受けます。
- ・各単元が終了した際に、副教材「学習課題集」に取り組み、提出し点検を受けます。
- ・各定期テストの際に、ノートを提出し点検を受けます。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は「現代の国語」とあわせて、すべての国語の教科の基礎となる科目です。漢字や語句を丁寧に習熟し、確かな基礎力を身に付けましょう。そのためには、教科書をしっかり読む、授業をしっかりと聞く、ノートをしっかりと取ることが重要です。意欲を持って取り組んでください。

（担当：細山・山下）